

令和5年度第2回 四條畷市産業振興ビジョン推進協議会（会議録）

開催日時	令和5年10月31日（水） 午後3時～4時40分
開催場所	四條畷市役所 本館2階 ミーティングルーム
出席者	平井委員長、上村委員、猪飼委員、松川委員、上田委員、奥村委員 北田委員、小泉委員、成見委員、野島委員（順不同） 東市長 （事務局） 市民生活部地域振興課
次第	1 委嘱状交付 2 市長挨拶 3 委員長選任 4 委員自己紹介 5 諮問「四條畷市産業振興ビジョンの見直しについて」 6 産業振興ビジョン見直しに向けた考え方について 7 産業振興ビジョン見直し案の検討について 8 その他

1 委嘱状交付

市長より委嘱状の交付

2 市長挨拶

市長より挨拶

（事務局）

四條畷市産業振興ビジョン推進協議会規則第3条第2項の規定により、会議が成立する旨を報告。

3 委員長選任

（事務局）

四條畷市産業振興ビジョン推進協議会規則の規定等を説明。

（上村委員）

よろしければ、平井委員に引き続き委員長をお願いしたい。

（事務局）

ただいま、平井委員を推薦する声がありましたが、皆さまいかがでしょうか。

（全員）

拍手にて承認。

（事務局）

ありがとうございます。それでは、平井委員を委員長とすることとなりました。それでは、平井委員長、簡単にご挨拶をお願いできますでしょうか。

(平井委員長)

挨拶

4 委員自己紹介

出席委員の自己紹介

(平井委員長)

審議会等の会議につきましては、「審議会等の会議の公開等に関する指針」に基づき、原則として公開することとされていますので、皆さまから特に異議がなければ公開するというにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(全員)

異議なし。

(平井委員長)

本会議の会議録についても、先ほど申し上げた指針に基づき、作成が義務付けられており、その記載内容につきましても、審議の経過が分かるように、各委員の氏名を記載の上、発言内容を明確にして記録することとなっておりますのでよろしくお願いたします。

5 諮問「四條畷市産業振興ビジョンの見直しについて」

(事務局)

四條畷市産業振興ビジョン推進協議会条例第2条第2号の規定に基づく、諮問内容について説明。

(平井委員長)

事務局の説明内容について、質問等がありますか。

(全員)

なし

6 産業振興ビジョン見直しに向けた考え方について

(事務局)

産業振興ビジョンの見直しに係るスケジュール及び考え方について説明。

(平井委員長)

事務局の説明内容について、質問等がありますか。

(全員)

なし

7 産業振興ビジョン見直し案の検討について

(事務局)

産業振興ビジョンの見直し案の前半部分について事務局から説明。

(平井委員長)

産業振興ビジョンにおける観光についての考え方について、協議会としての結論を

求められているというところですよ。

普段関わられている分野からのご意見でもいいですし、市民としてお感じになられていることでも構いませんので、ご意見いただけますでしょうか。

(猪飼委員)

観光やシティプロモーションという話があったが、シティプロモーションというのは四條畷市の魅力を発信するということだと思うが、観光とは位置づけが異なるのか。

(事務局)

これまで先に観光に関する取り組みが行われてきたなか、東市長の就任により、四條畷の魅力を発信することで人口減少に歯止めをかけていく等の考えのもと、シティプロモーションという考え方が大きな市の方針として取り入れられた。明確にシティプロモーションが何で、観光が何という定義付けはされていないが、シティプロモーションという考え方が後に出てきたということもあるので、この機会に整理、見直しを行うべきではなかろうかというところ。

(猪飼委員)

四條畷市で観光を担う方を施策として呼び込むイメージか。

(事務局)

当初、観光の可視化戦略等に取り組むなかで、人に来ていただくということも含めて産業振興ビジョンのなかの分野で検討を行っていくこととして、取り組みを進めてきた。そのようななか、国において、地方創生や総合戦略等の取り組みが進められるなかで、シティプロモーションという考えが加わり、総合戦略であれば人口増といった議論をされてきた。

本市でこれまで取り組んできた観光については、シティプロモーションを重点的にやっていくなかで、産業についても前回までの会議で議論していただいた結果を踏まえ、歴史的な遺産をはじめとした資源を発信していくというところに力を入れていく、そして商業・工業・農業という3つの産業に連携していくということで、観光をシティプロモーションという考え方に発展的に転換してはどうかということとなっている。

(平井委員長)

枚方信用金庫として観光で業振興を含めて、取り組んでいるところはあるか。

(猪飼委員)

観光として具体的に取り組んでいる点ではないが、万博を契機とした取り組みを行う機会はあるのではないかと。大阪市内や京都と比べると弱い部分はあると思う。

(平井委員長)

確かにインバウンド等になると大阪市内や京都が中心という部分はある。

(猪飼委員)

そういう意味では地域資源の活用というのは重要であると思う。

(小泉委員)

枠組みを作るのに苦慮されていると感じた。

参考になるかは分からないが、大阪では大阪府及び大阪市共通の戦略として、「大

阪都市魅力創造戦略 2025」を策定しており、めざすところとしては、府民・市民が誇りや愛着を感じることができて、それによって世界に誇れる魅力あふれる都市を創り上げることを目標にしている。その要素には観光もあれば、文化や国際交流であったり、国内外の高度人材に来てもらって活躍いただくということもあれば、スポーツもあり、多様な魅力、都市のポテンシャルをすべて活かし、都市の魅力を上げていくということを行っている。

こういった考え方がこれから四條畷市がめざすシティプロモーションに近いかは分からないが、産業というところで観光を枠にはめてしまうよりは、広く都市の魅力をあげていくというところで捉えた方が発展性があるのではないかと感じた。

(野島委員)

飯盛城跡が国史跡に指定されたのは四條畷市では初めて。飯盛城跡が公益財団法人日本城郭協会から続日本百名城に選ばれた。年間を通し、743 人の方がそのスタンプを押しに来られる。大阪には芥川城跡と飯盛城跡、岸和田城の 3 か所のみである。1 日が多いときで関東から 10 数名の方が来られたこともある。

日本で最も古い馬飼の里でもあり、馬形埴輪等については、銀座エルメスの方に貸し出した事例もあり、四條畷から持ち出した埴輪が関東の方にも見ていただけている状況。

以前は楠公まつり等の取り組みを行っていたが、歴史的には重要な遺跡が多く、飯盛山には毎日登られている方もいるが、史跡を見に来られるというよりは健康管理で来られるイメージ。

四條畷から発信している考古学的な資料は非常に多く発信できると思うが、それが観光につながるのかはわからない。

(成見委員)

市に住んで 50 年以上になるが、元々は産業などの魅力が少ないと感じていたが、20 年ほど前に飯盛山に登るようになり、それから続日本百名城や国史跡となり、嬉しい気持ちになった。先ほど愛着という話もあったが、四條畷市の魅力を伝えるためにガイド活動をしているので、もっと発信が必要だと思っている。

(平井委員長)

ツアーで来られる方はおられるのか。

(成見委員)

過去に所属していた団体では、遠方からツアーで来られている方がいた。高槻市の芥川城跡と飯盛城跡をセットで行程に組んでいるものもあった。

(上田委員)

田原・農業という限定的な話になるが、ほ場整備が進むなかで、農業の受け皿ということ考えると少子高齢化が進んでおり、耕作放棄一歩手前まで来ているところもあり、下田原ファーム合同会社を立ち上げ、小麦栽培を行っている。徐々に事業者と連携を進めようとしているが、苦勞している部分もある。

(平井委員長)

同僚教員も農業に関する発信に取り組んでいる。知ったら若い人は面白いと思って来るという傾向があり、地産地消みたいな話をすると言葉は知らなくても、地元の

ものが良いとか、安全なものがいいとかそういった欲求は結構あると感じる。

(上田委員)

麦踏み体験や収穫体験も実施し、子どもの参加もあり喜んでもらえたが、マンパワー的に厳しい部分はある。

(奥村委員)

私も田原に住んでいるが担い手の部分は課題が多い。耕作できない農地所有者からの耕作委託も増えている状況。

また、販路の部分が課題である。学校給食の方にも納入しているが、米の消費自体が減ってきている状況。四條畷の特産物がない状況なので、そこがあれば発信も含めて変わるとは思うが、なかなか難しい。

米についても、食べた方からは好評であるものの、他府県のブランドに負けるところがあり、もっと発信力があれば変わる部分もあると思うが、時間がかかることではあると思う。

(上村委員)

例えば10年、15年前までは丹波篠山の黒豆を枝豆にするという感覚はなかったが、今では人気が高いと聞いている。下田原ファームの取り組みもぜひ頑張ってもらいたいという気持ちがある。

観光の部分で言うと、四條畷で「観光」という言葉が出てきたときに違和感があった。四條畷で生まれ育ったが、歴史的な資源や豊かな自然が良いと思うが、観光で他所から四條畷に来られ、お金を落としてくれるかということにはなかなかならないと思う。

観光資源としてはあるものの、人を呼べるかということと足りないのではないかな。

小泉委員のおっしゃるように都市の魅力という観点で、歴史的資源であったり、山が3分の2あるので、他にはない自然があり、他所にはない魅力がある。そこをどう活かしていくかというのが大事なのではないかと思う。

(平井委員長)

産業振興ビジョンの策定時は、観光に起因した商店街等他産業への波及効果を期待していた側面があったかと記憶している。

(松川委員)

田原の農産物については、10年程前に大阪商業大学の学生と連携し、なんこうシヤルでおにぎりを販売したことがあった。今は地元で作っている米や野菜を地元の人々の口に入らないという状況なので、もっと気軽に手に入ればと思うが。

観光に関しては、外から人に来てもらうというのはなかなか難しいのではないかな。飯盛城跡の発信については、両市にまたがっているものの、大東市が積極的に行われている。御城印についても今は2市で一緒にやっているが、一番初めは大東市が行われており、今一緒にやっている御城印についても、市民でも知らなかったという声を聞く。遅れているということではないが、これから四條畷ができることではないかな。

商業については、農業と同じで担い手不足の問題がある。地元の人々の店舗が閉まると市外の人々が新たに始められる。四條畷の人が市に愛着を持ってできるような形が

理想。

(平井委員長)

カフェ巡りが趣味という学生が多くいるが、情報はすべて Instagram で取得しており、発信の仕方での動きが変わるということを実感している。

(北田委員)

元々山が好きなので登っていたが、徐々に登らなくなった。飯盛山は四條畷より野崎から上がられる方が多いと聞いている。コロナ禍前は JR とタイアップしたハイキングが行われていたが、最近は見なくなった。

(事務局)

JR ハイキングについては、JR において現在も近畿圏内で行われてはいるものの、紙面等の都合もあり、原則定員が 100 人以上の事業が対象となることから、本市においては事業規模の点から実施できていない現状にある。

(平井委員長)

京都であればオーバーツーリズムというような問題もあるが、人に来てもらってはじめて魅力に気付いてもらい、消費につながるという側面もある。

四條畷ではビジネスとして、例えばここに旅館ができて、観光業が盛り上がるというようなことになるかは正直疑問があるが、まずは魅力に気付いてもらうことが大切。

観光資源は多くあるが、どう産業などの発展のために使っていくかというのは課題のひとつであるように感じた。また、発信・PR が必要である。

(野島委員)

四條畷神社が明治 23 年に創建され、そのときには年間 30 万人の方が参拝され、そのために鉄道が敷かれた。そういった経過もあり、四條畷高校や四條畷警察、裁判所等が四條畷に設置された。

一方で、四條畷神社は宗教法人であることから、歴史と宗教法人をどう結び付けるのか、どう切り分けるのかということも難しい問題。

(平井委員長)

ここでひとつ提案をさせていただきたいと思いますが、市から協議会として観光に関する考え方を整理していただきたいと思いますという点をお諮りいただいています。

ここまでの議論のなかでは、委員の皆さんから観光に関する考え方や魅力発信の観点のご意見があったかと思います。協議会としては、観光を産業のひとつとして位置付けるのではなく、シティプロモーションや魅力発信という観点から産業の振興を図っていくべきということで市あてにご提言させていただき、また、今後の議論もそれを前提に行っていくということによろしいでしょうか。

(全員)

異議なし。

(平井委員長)

ありがとうございます。今後は、シティプロモーション・魅力発信という観点から産業にプラスになるように働きかけていくというのがひとつの方向性になるのではと感じています。

協議会としての決定を行うこととなりましたが、この決定について、何か文書のような形で市あて提出させていただいた方がよろしいでしょうか。

(事務局)

そうしていただけるとありがたいです。

(平井委員長)

ご同意いただきましたので、提言書のような形でご意見差し上げるということで、具体的な文言等につきましては、私と事務局とで調整させていただき、次回の会議でご報告させていただくということでよろしいでしょうか。

(全員)

異議なし

(平井委員長)

ありがとうございます。それでは、時間も結構経過してしまいましたが、続きはどうさせていただきますでしょうか。

(事務局)

産業振興ビジョンの見直し案の後半部分について説明させていただければと思います。

(平井委員長)

それでは、事務局よろしくお願ひします。

(事務局)

産業振興ビジョンの見直し案の後半部分について事務局から説明。

(平井委員長)

事務局から KGI、KPI についてご説明いただきましたが、ご意見等がありますか。先ほど大阪都市魅力創造戦略の話もありましたが、KGI、KPI についてはどのように設定されているのでしょうか。

(小泉委員)

「大阪都市魅力創造戦略 2025」については、非常に幅広の内容を取りまとめているものだが、誘客に関する数値目標として、「大阪における日本人延べ宿泊者数」及び「来阪外国人旅行者数」を設定している。

(松川委員)

売り上げを目標に設定した場合、昨今の物価高の影響を受ける可能性があるので、その点については考慮したうえで設定が必要ではないか。

(小泉委員)

目標値を設定した後に環境変化が生じることはあると思うが、目標値の見直しについてはどのように考えているのか。

(事務局)

基本的に設定した目標は変えないことを考えている。この数値を基に進捗管理のなかで、ブレの要因も含めて管理できればとは考えている。

見直しについては、現時点で検討してはいないが、この協議会において必要であると判断された場合は、改めて検討する可能性はある。

(平井委員長)

教科書的にいえば、ゴールポストを動かすことになるので、KPI、KGI はむやみに変更するものではないが、必ずしもその数値が達成されさえすれば良い、ということでもない。先ほどの物価高のように、数値が達成できたとしても、その背景がどうなのか、実際の要因は何なのかというような評価をしていくということが求められるのではないか。

一定の指標は必要であると思う。今回のように社会情勢がガラッと変わってしまった場合などは見直しが必要になることもあるのではないか。

8 その他

(事務局)

次回会議の日程調整。

11月27日午後3時で決定。

(平井委員長)

それでは、本日の予定案件は全て終了いたしました。

今回の議事録につきましては、事務局が作成したものを皆さまに一度ご確認いただいた後、最終的に私に一任ということで進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(全員)

異議なし。

(平井委員長)

それでは、本日の会議はこれで終了といたします。長時間ありがとうございました。

以上